

## 普及活動情勢報告（令和2年5月分）

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

### 新規就農者の確保・育成 ～JA高知県春野胡瓜部会の取り組み支援～



来年度の事業導入に向けて、必要なことを事前準備

5月12・22日、普及所およびJA高知県春野営農経済センターにおいて、関係機関による「JA高知県春野胡瓜部会 新規就農支援チーム会」と、「JA実践研修ハウス打ち合わせ会」を開催しました。産地提案型の新規就農者受け入れを始めて8年目となり、チーム会の中では、継続した新規就農者の確保と育成を進める一方、研修生への新たな出口対策として、来年度からJA実践研修ハウスを導入するための検討を始めています。

普及所では新規就農者確保対策を重点課題に位置づけ、引き続き部会自らが行う活動に協力支援していきます。

### 親株管理を徹底しましょう ～イチゴだより～



イチゴだより

イチゴチーム会(普及所・JA高知市)では月1度、時期に応じた注意点等を周知すべく、イチゴ広報誌「イチゴだより」を作成しています。

5月号では親株管理と本ぼ消毒を特集し、5月7日および14日、苺部会員15戸に配布しました。農家からは「毎月楽しみにしている」「時期ごとに知りたいことをまとめてくれるのでありがたい」等の声をいただいております。これからも注意点だけでなく、地域に根ざした情報や最新のニュース等を発信します。

普及所では、今後もイチゴの安定生産技術の確立や普及推進に取り組んでいきます。

### 新ショウガの出来映えは？ ～炭酸ガス実証ほ調査の実施～



実証ほ調査株の様子

4月27日と5月8日に、JA高知県春野管内の炭酸ガス施用実証ハウスで、新ショウガの掘り取り調査を行いました。

今作は、前作よりも草丈や茎径が小さく、収量も少ない結果となりました。炭酸ガスの施用に際しては、温湿度等の管理方法も生育・収量に大きな影響を及ぼすことが分かってきています。実証農家からも、「生育には炭酸ガス以外の要因も大きく、もっと検討が必要」との声が聞かれました。

これを受けて普及所は、次作は炭酸ガスだけでなく、温湿度等の栽培管理が収量・品質に及ぼす影響を調査していきます。

(農) 梅ノ木ファーム総会が開催されました ～新たに加工の取り組みを計画～



間隔を空けての総会開催

5月18日梅ノ木公民館において、令和2年度(農)梅ノ木ファーム総会が、人数制限や座席間隔を空ける等コロナ対策をとった中で開催されました。

総会においては、機械整備の充実や、今後連携が進んでいく集落活動センターについての意見交換がされ、普及所からも、付加価値をつけた農産物販売のため、加工品の生産を中心とした6次産業化に向けての支援内容について説明を行いました。

今後普及所は、農産物加工の具体化に向け、毎月の理事会、研修等の中で支援を行います。

6次産業化への支援 ～高知市女性部鏡支部加工部支援チーム会～



支援チーム会

5月19日 JA 高知市鏡支所において、加工部支援チーム会(12名参加)を開催し、既存商品の改良による販売額の向上を目指した検討を行いました。普及所からは、支援プログラムの実施計画(案)の提示や事業を活用した県外での試食販売活動、県版 HACCP 認証取得のための継続的な取り組みについて提案を行いました。参加者からは「梅の加工に力を入れたい。」「新パッケージの反応を確かめたい。」等の声がありました。

今後も関係機関とともに、県版 HACCP 認証取得や既存商品の改良による商品力向上について支援を行います。

新ショウガの出荷が始まりました ～新ショウガ現地検討会・研修会～



換気に努めて開催

5月19日、JA 高知市長浜園芸部土物部会新ショウガ生産者ほ場にて現地検討会が開催され、7名が参加しました。

6戸のほ場を巡回し、栽培状況や気になる点を中心に活発な意見交換が行われました。概ね生育は順調で、普及所からは引続き適切な栽培管理を呼びかけました。また研修会では、ショウガ根茎腐敗病の対策および土壌還元処理について報告しました。生産者から積極的な質問も出され、次作に向けた病害対策に一段と気合いが入っている様子でした。

今年夏には、根茎腐敗病が発生した3ハウス(面積30a)において、低濃度エタノール土壌還元処理が実施されます。今後も生産者やJAなどと連携し、課題解決に向け支援をしていきます。